



2022 年度（令和 4 年度・第 8 期）

事業計画書

1. 2022 年度 事業方針
2. 2022 年度 事業計画書
3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

1. 2022 年度 事業方針

私たちは「子どもたちとの関係性を大切に」「この人と話がしたいと、感じてもらえる関係になろう」という思いを持ち、安心できる繋がりや関係性を重視し、日々の支援を届けています。

病気と向き合う生活というのは、経験した者としても、とても息苦しいものです。そのような生活を送る子どもたちやご家族も、ポケットサポートとの関わりを通して、新たな仲間をつくり「ひとりじゃない」と感じることで、病気の治療に対して、さらには自分たちの未来に対しても前向きに捉えることができるようになります。

コロナ禍以前は、支店拠点や小児病棟のプレイルームでのポケットスペースが、子どもたちや保護者に出会う場であり、雰囲気を知ってもらう場であり、日頃の悩みや不安の相談、明るく会話を楽しむ「繋がるの場」そのものでした。子どもたちや家族の変化も直接見て、聞いて、感じてきました。

対面での支援や病院の中での活動が休止となった現在は、子どもたちやご家族との関係は、主にリモートの画面や、電話、メールの先にあり、新たな子どもたちとの出会いの形も変化してきています。

そのような現状で私たちが今、直面している課題が「新たな子どもたちやご家族と出会い、関係性を継続していくこと」です。

そのため、今年度の事業では「知ってもらう・繋がる・広める」ことを重点テーマに掲げ活動を行っていきます。



Google 検索や YouTube 動画広告などを活用した取り組みとして、感染症のリスクをゼロにした WEB によるアウトリーチ作戦に力を入れて取り組みます。私たちが未だ見ぬ子どもたちやご家族との出会い、支援の必要性を感じたご家族がポケットサポートと繋がりやすい環境を作っていきます。新たな「繋がり」を通じてより多くの子どもたちへ支援を届けていく第一歩としてこの支援事業を進めていきます。

そして、今まで連携してきた市の保健所や県の教育委員会からさらに発展させた形のネットワークを構築していきます。私たちが繋がってきた関係者たちがオンラインからリアルに顔の見える関係を作っていくことで、岡山地域で包括的に病気を抱える子どもたちを支える人たちの「繋がり」を育んでいきます。



Salesforce（支援者や利用者の個人情報や、お問い合わせ内容、やりとりの履歴などを一元管理するシステム）を使用し、セキュリティを強化したデータベースを活用することで、個別の支援事例について行政や多職種との協働の中で適切な支援に繋いでいきます。



ご支援・ご協力くださる企業や個人の方と共に、学びや体験が行える事業にも取り組みを進めていきます。

SDGsに関連した取り組みとして、ハチドリ電力と連携し地球温暖化解決と病弱児支援についての啓発イベントの実施など、様々な視点から「誰一人取り残さない社会」を作っていくための試みも行っています。



何より私たちの支援は多くの「ポケサポ応援団」によって支えられています。昨年度から始めた「子どもの学び応援サポーター」登録者100名の達成や、新たな事業受託に向けても動きだしていきます。思いを共有してくださっている「ポケサポ応援団」と共に、私たちの活動を通して、病気を抱える子どもたちの支援の大切さを多くの方々を知っていただけるよう、より一層の関係を築いていきたいと思います。

以上の事業を展開しながら2022年度も、一緒に未来を作っていく仲間たちと共にコロナ禍の難局を乗り越えながら、病気を抱える子どもたちが安心してすごせる社会づくりに取り組んで参りたいと思います。

代表理事 三好 祐也



2. 2022年度（令和4年度・第8期）事業計画書

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
個別学習支援 (双方向WEB)	自宅療養中や復学初期の子どもに対して支援拠点やICTを活用した学習支援	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ100名	随時 支援拠点等	2,500,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	年間 延べ 20名	大学生 延べ100名	年5回 オンライン等	300,000
多職種連携チーム づくり事業	県内の院内学級担任、医師や看護師等が集って情報共有、2月にフォーラム開催(田辺三菱製薬手のひらパートナー助成)	年間 延べ 50名	参加者等 延べ200名	年4回 オンライン等	850,000
当事者へのWEB アウトリーチ事業	検索連動型広告を活用したアウトリーチにより資料配布や個別支援に繋げる(タケダ・ウェルビーイング・プログラム助成)	年間 延べ 50名	当事者家族等 延べ100名	4~6月 オンライン等	600,000
小計					4,250,000

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
ポケットスペース	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施(岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務)	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ130名	年間110日 市内3拠点	2,300,000
交流イベント (きょうだい含む)	季節に応じた体験交流イベント開催で当事者同士のピアサポート、自分らしい家族形成支援に繋げる	年間 延べ 50名	小中高校生 延べ100名	年5回 オンライン等	2,300,000
病弱児と家族の 孤立防止事業	病弱児とその家族の孤立防止のための動画制作およびWEB広告運用(赤い羽根共同募金助成) ※5月決定	年間 延べ 150名	当事者家族等 延べ100名	随時 オンライン等	4,480,000
小計					9,080,000

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会に講師派遣病弱児支援について広報、周知活動	年間 延べ 20名	受講者 延べ600名	随時 全国各地	200,000
地域多職種連携 拡充・研修事業	病弱児教育や療養環境について講演会開催、多職種からの個別相談事例DB化(橋本財団ソーシャルワーク支援助成)	年間 延べ 50名	教育関係者等 延べ300名	8月講演会等 オンライン等	1,500,000
個別支援事例を 伝え広める事業	支援事例集の制作や事例解説動画を活用した幅広い関係者への啓発活動(ベネッセこども基金助成)	年間 延べ 50名	教育関係者等 300名	随時 オンライン等	1,000,000
SDGs 連携事業	地球温暖化解決と病弱児支援をハチドリ電力と啓発するイベント開催(MDRT Foundation-Japan 助成)	年間 延べ 30名	参加者等 100名	5月予定 オンライン	250,000
小計					2,950,000

事業費合計：16,280,000円

3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

Vision（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

Mission（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

1. 『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どもに関わる人を繋ぐコーディネートを行うと共に
社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく

<2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況>

1. 『環境をつくる』 取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通じた復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチや ICT 利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の教育機会の提供を目指す(ICT利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

2. 『生きる力を育む』 取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇気」を持てるようピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいも楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

3. 『人や気持ちを繋ぐ』 取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成